

妊娠中のMRI検査について



造影剤を使わない単純MRI検査は妊娠中も安全に行うことができます

カナダ、トロントの St Michael 病院産婦人科から報告された 12 年間 1737 件の胎児 MRI（妊娠第 1 期）の児への影響に関する長期的調査研究（2016 年 9 月 6 日）※の結果では、妊娠初期に胎児 MRI を行った児は、行っていない児と比較し、成長障害、視力、聴力、発がんなど明らかな影響は認められなかったことが明らかになりました

※Association between MRI exposure during pregnancy and fetal and childhood outcomes. JAMA. 2016; 316(9): 952-961

日本小児放射線学会 HP

http://www.jspr-net.jp/information/info_2a.html より



MRI 検査の造影剤であるガドリニウム剤を併用して検査を行った胎児の追跡調査では、児に対する悪影響の可能性が示されているため、児に対する危険性を上回る母体への有用性がない限り、造影剤使用は避けるべきとされます。

妊娠中の検査全般について、不安に思われるかたがいらっしゃいます。無用の検査を受ける必要はありませんが、疾患の診断や治療方針決定に必要であれば、妊娠中であることを理由に避けたり延期したりする必要はありません。詳しくは直接産婦人科専門医にお尋ねください。

妊娠初期は母体の年齢に応じて一定の確率で流産がおこることが知られています。MRI 検査によって流産の可能性が高まることはありませんが、ご心配の際は検査後早めにかかりつけ産科主治医を受診し、児の状態をご確認ください。